

# 令和4年度事業報告

## I. 事業活動の概要

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念される中、高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう介護福祉事業の充実と感染防止に努めましたが、令和4年度においても新型コロナウイルスの猛威は続き、デイサービスJAはなかごでは、利用者、職員の新型コロナウイルス感染が続き、感染拡大防止のため、5月6日から5日間臨時休業を強いられました。そのような大変厳しい事業環境ではありましたが、それ以降は単発的な罹患は発生しましたが、施設での感染は沈静化しました。

また、訪問介護事業、居宅介護支援事業の両事業についても職員が罹患したことにより、業務が多忙にはなりましたが、職員間で業務を補完しながら営業を継続することができました。

デイサービスJAはなかごでんまでも、利用者、職員の罹患はありましたが大事には至らず、臨時休業することもなく営業することができました。

上半期は、コロナ禍による大変厳しい状況が続きましたが、8月頃からは新型コロナウイルス感染も落ち着きを見せはじめ、デイサービスの利用者も徐々にではありますが回復してきており、稲穂会全体では事業収益を確保することができました。

## II. 事業報告

### 1. 通所介護事業(JAはなかご)

新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年度の1日平均利用者数は26.8人でしたが、令和4年度は28.0人と若干ですが増加しました。しかし、高齢者にありがちな筋力低下による転倒により、骨折入院される利用者の方も数名ありました。

また、JAはなかごでも利用中に転倒による骨折事案が発生しました。介護職員は、常々十分注意を払い介助や見守りを行っていますが、ふとしたことで転倒され骨折の疑いが認められたため、救急搬送を行い受診の結果、骨折が判明し入院となりました。このように施設内で発生した事案については、行政に報告するとともに、ご家族には事故の経緯を十分説明し、一定のご理解を頂きました。

そして、事故の再発防止、削減に向け職員ミーティングを行い、事案を共有化するとともに、職員間での声掛けや業務配置の再考等改善を図りました。

業務面では、季節に応じたレクリエーションやはなかごカフェ、カラオケ大会等利用者に喜ん

でいただける催しを企画しました。

また、運動機能の低下を防ぐリハビリにも力を入れ、定期的に体力測定を行い前回よりも数値が低下した項目、逆に維持や向上した項目等を注視し、お知らせするとともに利用者個々に合わせたリハビリを提供しました。

#### 令和4年度 介護度別年間利用回数

( 回 )

	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計
男性	44	260	929	374	361	5	245	2,218
女性	252	1,390	1,359	1,639	521	1,007	120	6,288
計	296	1,650	2,288	2,013	882	1,012	365	8,506
R3年度	266	1,888	2,067	2,630	531	422	297	8,101

## 2. 訪問介護事業

コロナ禍の中、事業の最前線で尽力いただいているヘルパー職員の高齢化が課題になっています。新規利用の依頼は多数ありニーズは非常に高いのですが、対応できる件数に限りがあり、昨年度の訪問時間数と比較するとかなり減少しています。

そのような状況の中、以前から募集していましたヘルパー職員を3名採用することができました。1日でも早く業務に慣れ、1件でも多く訪問できるように丁寧に指導・支援してまいります。

業務面では、多数ある新規の訪問依頼全てを対応することはできませんが、調整できるところは調整し引き受けるとともに、訪問時に新型コロナウイルスを持ち込まないよう、消毒等感染予防を徹底し対応しました。

#### 令和4年度 サービス別提供時間

( 時

間 )

	身体介護	生活支援	身体・生活	介護給付Ⅰ	介護給付Ⅱ	介護給付Ⅲ	介護給付外	計
			活					

サービス提供時間	703	1,487	922	1,039	727	770	22	5,670
R3 年度	1,183	1,855	700	1,131	746	1,069	38	6,722

### 3. 居宅介護支援事業

ケアマネジャー3名が担当する利用者数は、3月末現在112名(要介護88名、要支援49名・支援は1/2換算)となりました。入院中の利用者もありますが、担当利用者数平均は37.5名(担当人数枠39名)となっています。

また、ケアマネジャー1名の欠員が続いており、ハローワーク、新聞折込み等により募集を継続しておりますが、応募はなく厳しい状況が続いています。

業務面では、本人が望む介護を丁寧に聴き、家族の意見や要望を汲み取り、利用者本人にとって最適のサービスを提案しました。

また、地域で暮らしたい、住み慣れた家庭で過ごしたい高齢者の方には、親身に向き合い意向を尊重し、様々な施設介護サービスだけでなく、地域福祉サービス等も提案し、納得いただけるよう支援しています。

#### 令和4年度 介護度別利用者人数

(人)

	介護1・2	介護3・4・5	介護予防	合計
利用者人数	678	291	616	1,585
R3 年度	710	297	629	1,636

### 4. 給食サービス事業

コロナ禍により食事関連のイベントを縮小していましたが、感染防止を徹底して、久しぶりのランチバイキングを11月に開催しました。バイキングのメニューは五目おにぎり、すき焼き、天ぷら、焼きそば、ポテトサラダ、茶わん蒸し等盛りだくさんで、フロアーにテーブルをセットし、ご自分で選んで取っていただけるように工夫を凝らしたところ、利用者から歓声の声が上がり大変喜んでいただきました。

また、収支改善に取り組んだ結果、大きく改善した給食事業ですが、原材料価格、光熱費

等の高騰を受け、大変厳しい状況でした。しかし、価格の安い食材を使うのではなく、旬だからこそ安くなっている美味しい食材をメニューに加え、できるだけ費用を抑えながらも、満足いただける食事を提供しました。

#### 令和4年度 施設別食数・金額

	R4 年度		R3 年度	
	食数 (食)	金額 (千円)	食数 (食)	金額 (千円)
はなかご	9,741	6,150	9,548	5,994
加古川	9,317	4,703	10,845	5,464

#### 5. 通所介護事業(JAはなかごてんま)

オープンから3年を迎えたJAはなかごてんまですが、コロナ禍により近隣施設では感染拡大防止のため、外部との交流遮断や臨時休業する施設が多数ありました。JAはなかごてんまでも利用者、職員の単発的な罹患はありましたが、施設内、リハビリ機具、送迎用車両の消毒や、リハビリルームの強制換気等の感染予防に努めた結果、クラスターには至らず臨時休業することはありませんでした。

令和3年度の平均利用者数は、1カ月70名で371回でしたが、令和4年度は登録利用者数も100名を超過し、1カ月約89名の472回と利用者数は増加しました。しかし、コロナ感染等による体調不良や入院で休まれる方も多くありました。

また、要支援1および要支援2の利用者が全体の約70%を占めていますが、介護度の高い要介護4、要介護5といった常に介助を必要とされる方についても対応しています。今後、利用者が増えても煩雑な対応にならないよう注意を払い対応して参ります。

利用者の状態が多様化する中、安全で楽しく運動ができるよう心掛け、毎回同じことの繰り返しにならないよう工夫を凝らし、利用者一人ひとりに合ったプログラムを提供することで、辛いだけのリハビリにならないように取り組んでいます。

#### 令和4年度 介護度別年間利用回数

	事業対象者	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計

男 性	0	641	1,060	922	157	21	26	72	2,899
女 性	21	1,137	934	251	266	33	128	0	2,770
計	21	1,778	1,994	1,173	423	54	154	72	5,669
R3 年度	0	1,673	1,417	940	348	3	83	0	4,464

## 令和 5 年 度 事 業 計 画

### I. 事業方針

超高齢化社会の進展にともない、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるよう、地域に密着した介護福祉事業を展開します。

経営面では、第二次収支改善計画の第二事業年度となりますが、令和6年4月のJA兵庫南福祉事業部門との事業統合を見据えた活動を展開し収益確保に努めます。

新型コロナウイルス感染予防対策については、感染症の拡大に応じて具体的な対策に取り組んできました。令和4年度では若者の重症化リスクは低く、感染しても軽症で済む一方で、

高齢者のリスクは依然高い状況にありました。令和5年度についても引き続き新型コロナウイルス感染予防を強化徹底するとともに、国の感染症対策予防措置の動向を踏まえながら感染防止に努めてまいります。

#### 1. 通所介護事業(JAはなかご)

利用者、家族の意向を尊重し、利用者ニーズに沿った介護を心がけ、より多くの利用者確保に努めます。

昨年度は、転倒による骨折や体調不良で入院され、長期で休まれる方が多数ありました。今年度は、利用者個々の体調に注意を払い、利用者一人ひとりに合わせた丁寧な介護サービスを提供します。

また、従来から取り組んでいる園芸療法を充実させるとともに、利用者の思いを反映したりハピリを提供し機能維持を目標に取り組めます。

#### 2. 訪問介護事業

新しくヘルパー職員3名が加わりました。求人を掲載しても応募がなく、大変苦慮していましたが、大きな一歩を踏み出せたのではないかと考えます。ただ、ヘルパーとしての業務は初めてに近く、慣れるまでは無理のないよう業務形態を調整し、JAはなかごで長期にわたり業務いただけるよう指導・支援してまいります。

ヘルパーの依頼は、内外問わず多くの事業所から問い合わせがあり、それに答えることができない葛藤がありました。今後は少しでも多くの依頼に答えたいと思います。

また、今後も引き続きヘルパー要員確保に努め、収益アップに繋がります。

#### 3. 居宅介護支援事業

コロナ禍による自粛生活の長期化で、高齢者は活動量の低下による虚弱リスクを高めており、地域の方々や利用者が住み慣れた地域で尊厳を保ち安心して暮らせるように、相談業務を強化してまいります。

業務面では近隣の病院や地域連携室を定期的に訪問し、JAはなかごのPRに努めるとともに、ケアマネジャー1人が担当する利用者数を昨年同様に確保してまいります。

また、ケアプランの提供については、利用者の立場にたち、ニーズを見極め、家族の意見を考慮しながら介護計画を立案し、急な計画変更にも対応できるよう取り組みます。

#### 4. 給食サービス事業

燃料光熱費、食材費の高騰により、例年以上の費用が発生していますが、JAの強みである

地産地消を前面に出し、旬の食材を多彩に取り入れるとともに、創意工夫を凝らした新たな献立にチャレンジし、はなかごの食事を楽しみに来所いただけるように努力します。

また、新型コロナの対応が緩和され、利用者との触れ合いが可能になるため、以前のように食によるレクリエーションについても増やしてまいります。

#### 5. 通所介護事業(JAはなかごてんま)

機能訓練に特化したデイサービスですが、コロナ禍の影響は受けましたが利用者数は順調に推移し、登録者数は、100名を超えました。ただ、体調不良等で自宅療養や入院される方も多く、実際の利用者は90名程度で推移しています。

令和5年度は、1カ月の利用者回数600回を目標に、1日平均30名の来所設定し、登録者数120名を目指して取り組みを強化します。

また、感染予防対策については、新型コロナウイルス感染が多少落ち着きを見せ始めていますが、引き続き新型コロナウイルス感染予防を強化徹底して取り組んでまいります。